

吉塚 6

—吉塚遺跡群第6次調査の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第555集

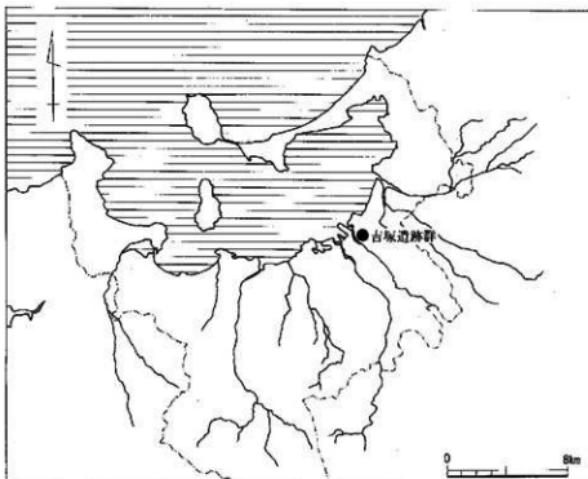
1998

福岡市教育委員会

よし 吉 づか 塚 6

—よしづか— 吉塚遺跡群第6次調査の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第555集



遺 跡 略 号 YSZ-6
遺 跡 調 査 番 号 9716

1998

福岡市教育委員会

卷頭圖版



1. 銅繩 (SE01出土)



1. 銅繩 (SE14出土)



1. 銅繩 (包含層出土)

序

古くから大陸文化の門戸として栄えた福岡市内、特に都心部の遺跡では近年の大小の再開発に伴い、現在まで数次にわたって記録保存のための緊急調査を行ってきました。失われていった遺跡とひきかえに新たな知見が得られています。

本書は共同住宅建設に伴って実施された吉塚遺跡群第6次調査を報告するものです。同じ博多湾岸沿いの砂丘に立地する国際貿易都市博多と近接する当遺跡との関連を示す資料の出土等、大変興味深い成果を収めています。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から資料整理にいたるまでご理解とご協力をいただきいたビーエス・ファーム有限会社の方々を始めとする関係各位に対し、心から感謝の意を表する次第です。

平成10年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 町田 英俊

例　　言

1. 本書は共同住宅建設に伴い、福岡市教育委員会埋蔵文化財課が平成9（1997）年度に発掘調査を実施した福岡市博多区堅粕5丁目所在の吉塚遺跡群第6次調査の報告－遺構編－である。
2. 本書に掲載した遺構の実測は担当の福岡市教育委員会埋蔵文化財課の佐藤一郎の他同井上謹子があたり、撮影は佐藤が行った。
3. 製図は藤村佳公憲が行った。
4. 本書の執筆・編集は佐藤が行った。
5. 本報告の記録類、出土遺物は遺物編の報告、収藏整理の後、福岡市埋蔵文化財センターで保管されれるので、活用されたい。

遺跡調査番号	9716		遺跡略号	YSZ-6	
調査地地籍	福岡市博多区堅粕5丁目429-1.306-10他		分布地図番号	博多駅36	
開発面積	705m ²	調査対象面積	600m ²	調査面積	358m ²
調査期間	1997（平成9）年5月26日～7月11日				

本文目次

I. はじめに	
1 調査にいたる経過	1
2 調査の組織	1
II. 遺跡の位置と環境	2
III. 発掘調査の概要	2
IV. 検出遺構	4
V. おわりに	8

挿図目次

第1図 吉塚遺跡群と周辺の遺跡(1/25,000)	3
第2図 吉塚遺跡群調査地区位置図(1/3,000)	3
第3図 吉塚遺跡群第6次調査遺構配置図(1/100)	5
第4図 井戸実測図	6
第5図 土壌実測図	7

図版目次

- 図版 1 (1) 吉塚遺跡群第6次調査南側（北から）
(2) 吉塚遺跡群第6次調査北側（東から）
- 図版 2 (1) S E01井戸（北から）
(2) S E近世井戸（北から）
- 図版 3 (1) S E15・16井戸（南から）
(2) S E15井戸土層（西から）
- 図版 4 (1) S E16井戸土層（南から）
(2) Pit 79土壤（北から）
- 図版 5 (1) S K02土壤土層（南から）
(2) S K17・18土壤（南から）
- 図版 6 (1) S K03土壤（南から）
(2) S K02土壤（南から）

I. はじめに

1 調査にいたる経過

1997（平成9）年1月30日、ビーエス・ファーム有限会社から本市に対して博多区堅粕5丁目429-1.429-2.306-10.306-2.306-7における居住用集合住宅建設工事に伴う埋蔵文化財の事前審査の申請がなされた。申請地は周知の埋蔵文化財であるところの吉塚遺跡群の南西に位置し、道路建設に伴う第1次調査区の南西に接する半地である。福岡市教育委員会埋蔵文化財課が、これを受けて1997（平成9）年2月12日に試掘調査を実施した。調査の結果、攪乱層下に灰茶色砂、暗茶褐色砂（厚さ50cmの弥生から平安時代にかけての遺物包含層）、地山の黄褐色砂（やや粗い）が確認され、黄褐色砂上面で遺構を検出した。ビーエス・ファーム有限会社と埋蔵文化財課は文化財保護に関する協議をもったが、申請面積705m²の内工事で破壊を受ける建物部分600m²を対象にやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うことになった。ビーエス・ファーム有限会社と福岡市との間に発掘調査および資料整理に関する受託契約を締結し、調査は同年5月26日から7月11日まで行われた。

2 調査の組織

調査委託 ビーエス・ファーム有限会社

調査主体 福岡市教育委員会埋蔵文化財課

調査統括 埋蔵文化財課長 荒巻輝勝

第2係長 山口慎治

庶務担当 浅原千晶（前任） 河野淳美

調査担当 試掘調査 松村道博 池田祐司

発掘調査 佐藤一郎

発掘調査・資料整理協力者 宇美孝泰、尾花憲吉、楠本純次、中村米重、三浦力、奥田弘子、

尾崎真佐子、兼田ミヤ子、河津信子、桑原美津子、古賀美恵子、後藤タミ子、

高手与志子、為房紋子、砥板春美、野口リュウ子、播磨博子、相田友子、藤野洋子、

山口慶子、吉住シヅエ、相川和子、田中やす子、藤野邦子、藤村佳公恵

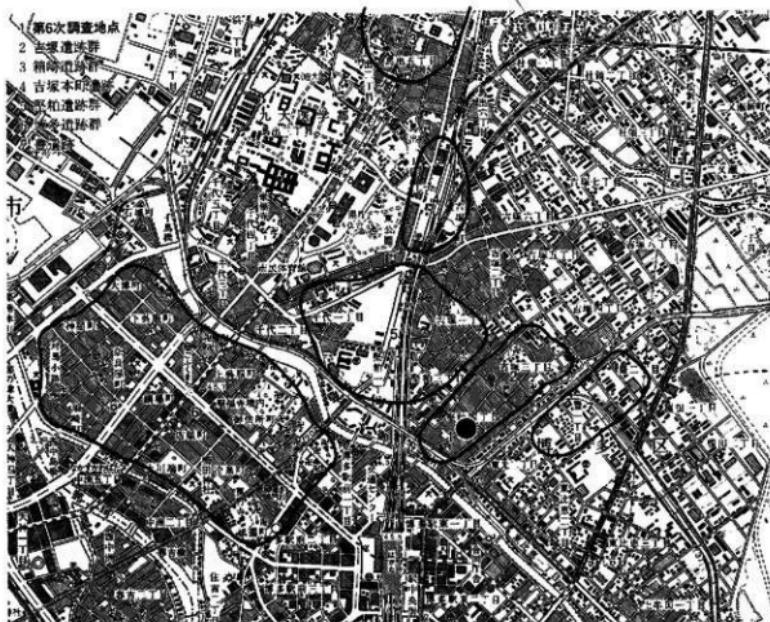
その他、発掘調査に至るまでの諸々の条件整備、調査中の調整等についてビーエス・ファーム有限会社をはじめとする皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し無事終了することができました。ここに深く感謝します。

II. 遺跡の位置と環境

吉塚遺跡群は博多湾岸沿いに連なる古砂丘、御笠川東岸下流域に位置する弥生時代中期から中世にかけての複合遺跡である。その範囲は南北約900m、東西300m、標高は4m前後を測る。これまでに6次にわたる調査が行われている。湾岸沿いの砂丘上には大小の遺跡が濃密に分布している。吉塚遺跡群の西側の砂丘上には博多遺跡群が位置する。弥生時代中期から集落が営まれ、中世前半からは対外交渉の拠点としてあまりにも有名な都市遺跡である。中世後半、蒙古襲来以降には鎮西探題が設置され、大宰府に代わる九州の中心となる。その後幾多の戦乱、復興をへて、近世の初めに長崎に國際貿易都市の座を明け渡すまで繁榮を誇っていた。地下鉄建設に伴う発掘調査を嚆矢として、これまでに100次を越える緊急調査が行われ、質、量ともに膨大な資料が蓄積されている。吉塚遺跡群の北西には堅粕遺跡群が位置する。これまで5次にわたって調査が行われ、古墳時代前期の方形周溝墓や後期の土壙墓、古代の集落が検出されている。反対側の吉塚遺跡群南東は後背湿地となっている。堅粕遺跡群の北側は吉塚本町遺跡が位置する。4次の調査が行われ、弥生時代後期から古代にかけての集落が検出されている。さらに北側には箱崎遺跡群が位置する。これまで13次の調査が行われ、古墳時代前期から中世にかけての集落が検出されている。文献の上では博多遺跡群と並ぶ対外交渉の拠点とされているが、調査件数・面積が博多に比べ少ないこともあって考古学上の成果は今後に期するところが大きい。

III. 発掘調査の概要

吉塚遺跡群第6次調査区は吉塚遺跡群の南西部に位置し、標高m前後を測る。第1次調査区の南西に隣接する。現況は家屋解体後さら地となっていた。調査は5月26日にバックホーによる表土剥ぎから開始し、排土はL字状をなす調査区域内で処理することとし、調査区を南東と北西に分け先ず南東側から調査、6月16日に反転を行った。調査区のはば全域に遺物包含層の暗褐色砂が厚いところで約50cm残っていたが、包含層上面での遺構の確認は困難で、遺物が密集している北西部を人力で掘り下げ地山の黄褐色砂上面で遺構の検出にあたった。検出した遺構は8世紀、13世紀前後、14世紀前後の井戸各1期、近世の井戸2基、主に弥生時代後期末から後期初頭にかけての土壙8基、古墳時代前期の飯蛸壺2を埋納したピット状遺構1基である。13世紀前後の井戸SE15から、高台内に墨書「西甫」が記された白磁皿片、14世紀前後の井戸SE16からは内底に双魚文を配す龍泉窯青磁杯片が出土している。他に包含層中、8世紀の井戸SE01、近世の井戸井戸SE14から銅鏡が各1点出土している。いずれも有茎鏡造脇持柳葉式に属する。土壙の中には成人喪棺片を多数出土するものもみられる。調査は7月1日に写真撮影、実測を経て、9日に埋め戻し、11日に発掘機材を撤収して終了した。



第1図 吉塙遺跡群と周辺の遺跡(1/25,000)



第2図 吉塙遺跡群調査地区位置図(1/3,000)

IV. 検出遺構

井戸

S E01 (第4図、図版2) 調査区の南端で検出した。掘り方は上面径3.5mの略円形を呈し、深さ0.9m、底面の標高1.5mを測る。南半部は調査区域外に延びる。壁面の土層から井戸枠の痕跡が確認された。遺構の時期は8世紀であるが、銅鏡1点が出土した。

S E15 (第4図、図版3) 濃査区の北側中央で検出した。掘り方は上面径2.2~2.5mの略円形を呈し、深さ1.2m、底面の標高1.1mを測る。基底部南側に上端径70cm、下端径60cm、深さ0.9mの桶側の残欠の木質が残存していた。西側がS E16井戸、近世の井戸S E14、現代の井戸に切られている。高台内に墨書「西南」と記された白磁高台付皿片が出土した。

S E16 (第4図、図版3) 調査区の北西端中央で検出した。掘り方は上面径2.1~2.2mの略円形を呈し、深さ1.1m、底面の標高1.8mを測る。北側が調査区域外に延びる。基底部西側に上端径60cm、下端径65cm、深さ0.7mの桶側の残欠の木質が残存していた。S E15を切り、南側が現代の井戸に切られている。内底に双魚文を貼付する龍泉窯系青磁Ⅲ類杯片が出土した。

土壤

S K02 (第5図、図版5) 調査区の中央で検出した。平面形は略円形を呈し、直径1.5m、深さ65cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

S K06 (第5図、図版1) 調査区の中央、S K02の北西2mで検出した。平面形は略円形を呈し、直径2.3~2.7m、深さ55cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

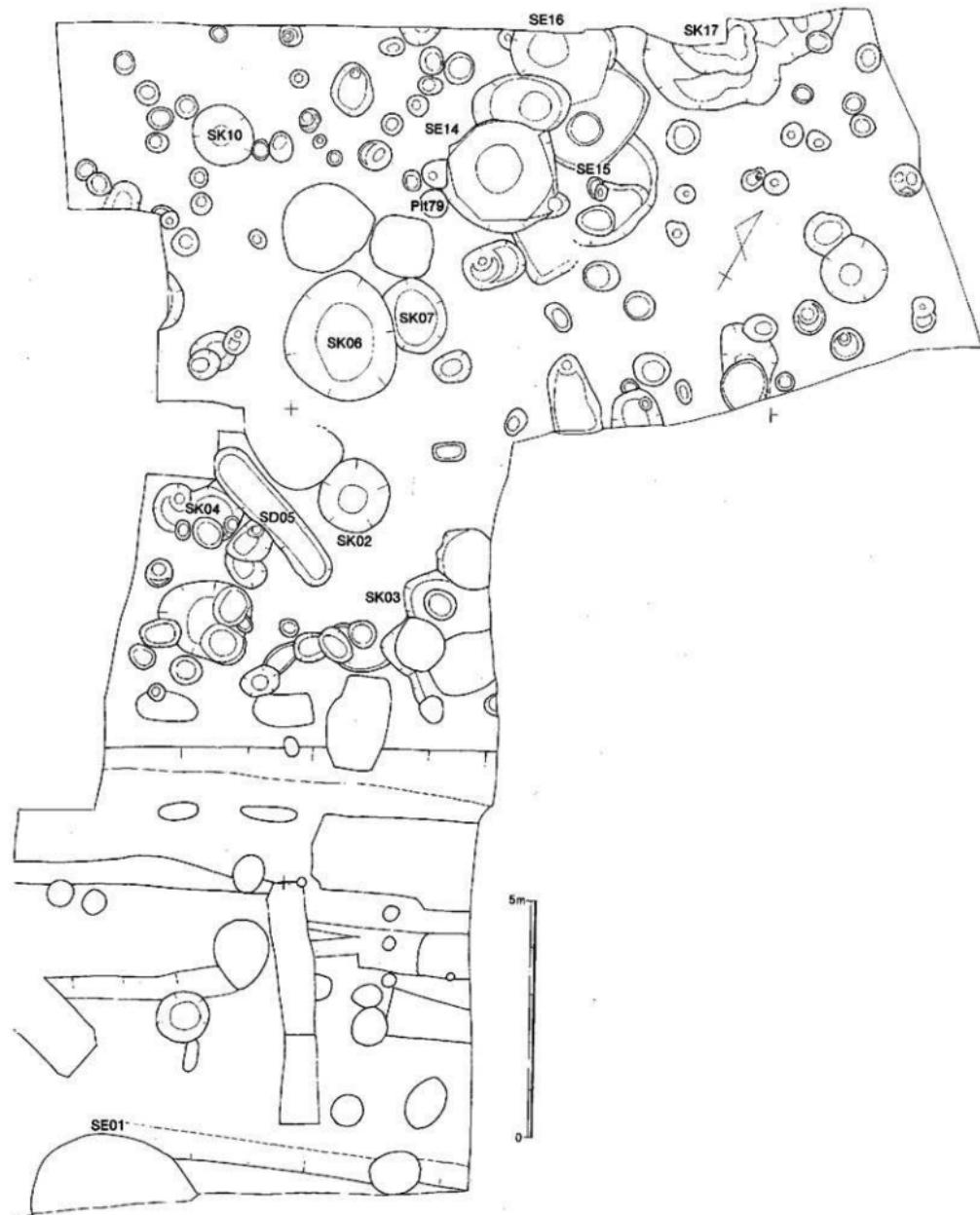
S K10 (第5図、図版1) 調査区の北西で検出した。平面形は略円形を呈し、直径0.7m、深さ45cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

S K04 (第5図、図版1) 調査区の中央、S K02の南東2mで検出した。平面形は不整円形を呈し、直径1.6~1.8m、深さ55cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

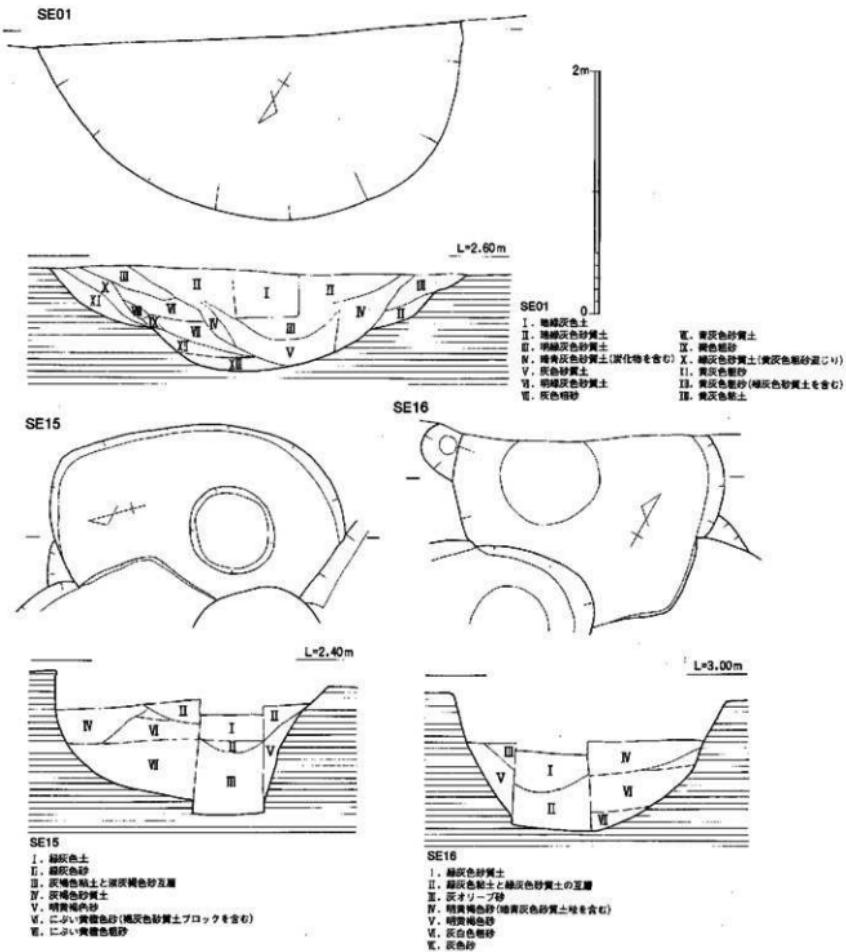
Pit 79 (第5図、図版4) 調査区の北西で検出したピット状の遺構である。平面形は梢円形を呈し、全長0.7m、幅0.5m、深さ20cmを測る。壁は斜めに立ち上がり、土壤の南側が一段高くテラス状に掘られている。飯縄壺2が底面より20cm浮いた状態で出土した。

S K17 (第5図、図版5) 調査区の北端で検出した。平面形は不整梢円形を呈し、北側が調査区域外に延びる。全長2.9m、幅2.0m以上、深さ95cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。S K18土壤に切られている。

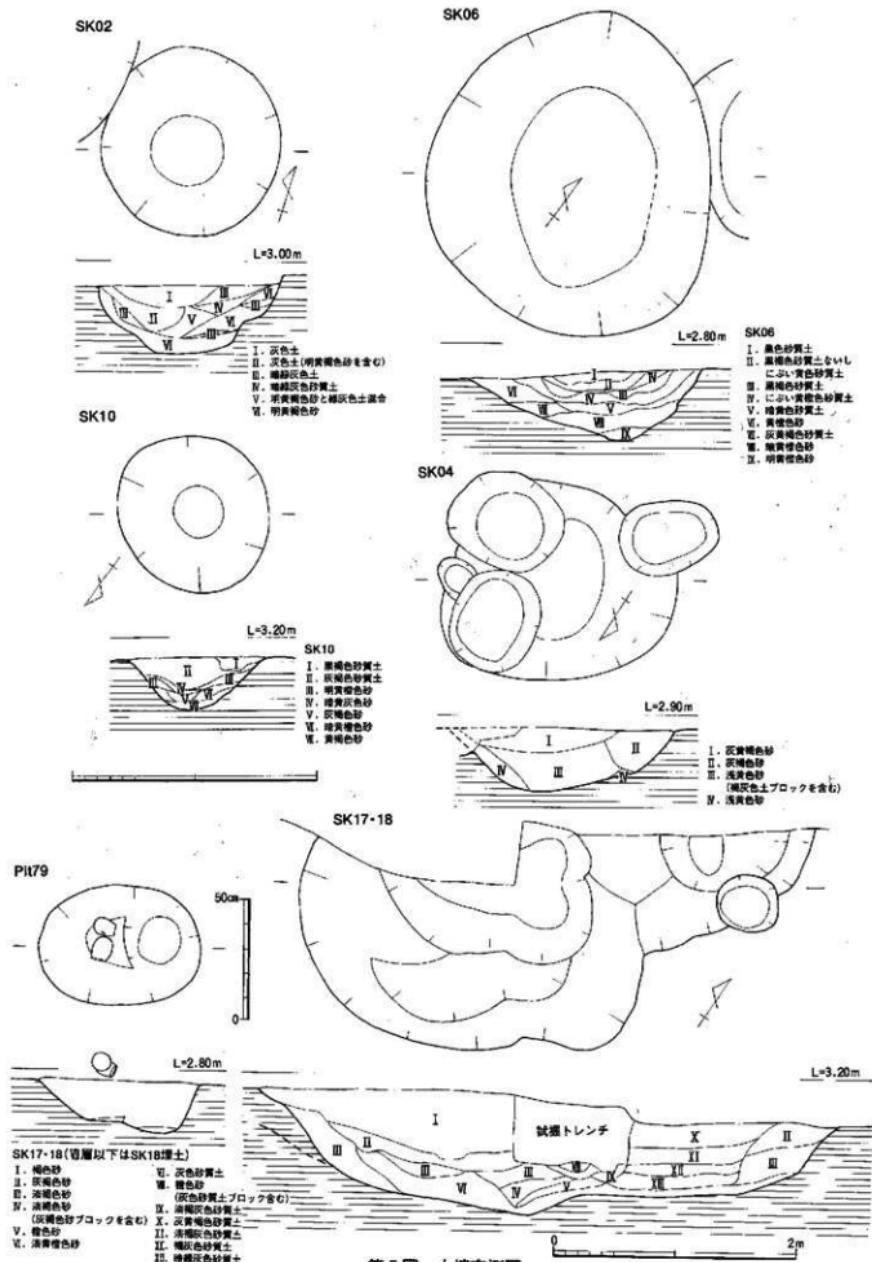
S K18 (第5図、図版5) 調査区の北端、S K17の北東で検出した。平面形は不整梢円形を呈し、北側が調査区域外に延び、南西が試掘トレンチにかかっていたために規模は不明である。全長1.5m、幅0.9m以上、深さ60cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。S K17土壤を切っている。



第3図 吉塙遺跡群第6次調査造構配置図(1/100)



第4図 井戸実測図



第5図 土壌実測図

V. おわりに

諸般の事情から半年度で発掘調査から資料整理・報告を行うこととなり、時間的な制約により中間報告的な「遺構編」という不十分な成果報告となったことで、お許しを乞う次第である。出土遺物については報告する機会を得た上で、改めて詳述することとしたい。従って、遺構の時期については出土遺物実測図の掲載とともに記述されるべきであるが、本報告での所見は調査時のそれを大きく出るものではない。

井戸については比較的多くの遺物の出土がみられた。それぞれの時期は、SE01が8世紀、SE15が13世紀後半～14世紀前半、SE16が11世紀後半～12世紀前半 SE14は近世である。また、包含層上面での遺構の検出は出来なかったが、削平を免れた井戸と同時期の遺構の検出漏れも十分考えられる。地山で検出した柱穴群は建物としてまとめることは出来なかった。包含層に堅穴住居が掘り込まれ、その壁が検出出来ずに、地山面に柱穴のみが残ったケースも想定されよう。

限られた面積での調査であったが、銅鏡3点の出土は特筆されよう。いずれも有茎鑄造腸抉柳葉式に属し、1点が包含層中、他の2点は8世紀代の井戸SE01、近世の井戸SE14からの出土で本来の出土状況ではない。第1次調査9地点においても銅鏡が1点出土しており、博多湾岸や那珂川流域の他の集落とその出土状況を比較しても遜色ない内容のものである。遺跡全体からすれば調査された面積は微々たるものであり、弥生～古墳時代にかけての集落としての評価は今後に期待される。

SE16から外底に墨書「西甫」が記された白磁高台付皿片が出土したが、吉塚遺跡群の西側の砂丘上には中世における対外交渉の拠点都市博多遺跡群が位置する。膨大な量の輸入陶磁器には墨書が記されたものが多くみられ、出土量で他の中世遺跡を圧している。吉塚遺跡群で検出された中世の遺構は博多、特に中心部のように密集した状態ではなく、遺物の出土量も博多と比べると僅少なものである。博多遺跡群以外での出土例が稀な墨書陶磁器の出土は、近隣の砂丘上に位置した集落が博多と何らかの関わりを持った証である。古代以前の当遺跡と同様に、調査の進展とともに遺跡の性格も明らかになり、博多との関連性についての論考も可能なものとなろう。

註1 福岡市教育委員会「吉塚1-国道3号線改良工事に伴う吉塚第1次地点遺跡の調査」1989

図 版



(1) 吉塚遺跡群第6次調査南側（北から）



(2) 吉塚遺跡群第6次調査北側（東から）

図版2



(1) SE01井戸（北から）



(2) SE井戸（北から）



(1) SE15・16井戸（南から）



(2) SE15井戸土層（西から）

図版 4



(1) SE16井戸土層（南から）



(2) Pit 土壙（から）



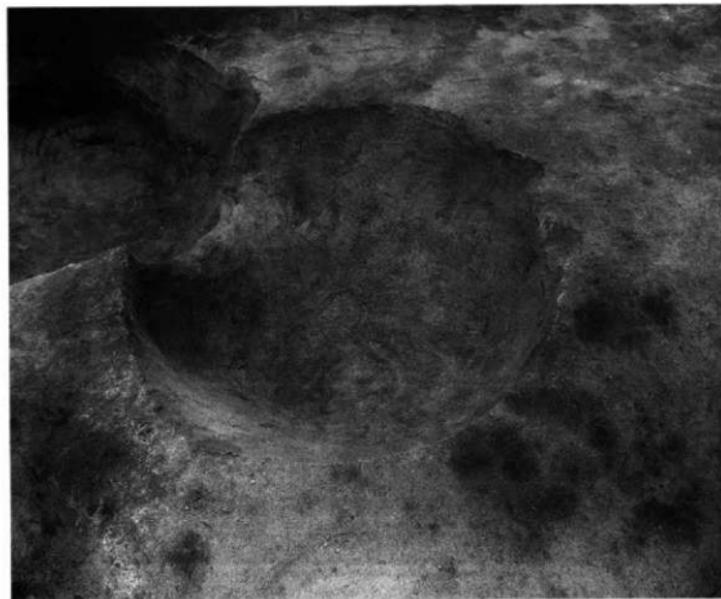
(1) SK02土壤土層（南から）



(2) SK17・18土壤（南から）



(1) SK03土壤（南から）



(2) SK02土壤（南から）

吉塚 6

—吉塚遺跡群第6次調査の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第555集

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷 博巧印刷株式会社

福岡市南区那ノ川1丁目9-7

